

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成25年6月20日 (2013.6.20)

【公開番号】特開2012-140346(P2012-140346A)

【公開日】平成24年7月26日 (2012.7.26)

【年通号数】公開・登録公報2012-029

【出願番号】特願2010-292630(P2010-292630)

【国際特許分類】

C 0 7 C 37/00 (2006.01)

B 0 9 B 3/00 (2006.01)

C 0 7 C 39/04 (2006.01)

C 0 7 C 39/06 (2006.01)

C 0 7 C 43/23 (2006.01)

C 0 7 C 41/00 (2006.01)

C 0 7 C 47/58 (2006.01)

C 0 7 C 45/67 (2006.01)

C 0 7 D 307/48 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 C 37/00

B 0 9 B 3/00 3 0 2 Z

B 0 9 B 3/00 Z A B

C 0 7 C 39/04

C 0 7 C 39/06

C 0 7 C 43/23 A

C 0 7 C 41/00

C 0 7 C 47/58

C 0 7 C 45/67

C 0 7 D 307/48

【手続補正書】

【提出日】平成25年5月2日 (2013.5.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

植物系バイオマスを熱分解することにより、少なくともフェノールまたはクレゾールを含むリグニン由来分解物を得る方法であって、

バイオマスを 4 0 0 以下の第 1 の加熱温度で加熱してガス化物を取り出す第 1 加熱工程と、

第 1 加熱工程で得られたバイオマス残渣を、5 0 0 以上の第 2 の加熱温度で加熱してリグニン由来分解物を得る第 2 加熱工程を含む、前記方法。

【請求項 2】

第 2 の加熱温度が 5 0 0 ~ 6 0 0 の範囲であり、第 2 加熱工程でさらに生じたバイオマス残渣を 6 0 0 以上の第 3 の加熱温度で加熱してリグニン由来分解物を得る第 3 加熱工程をさらに含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

植物系バイオマスを熱分解することにより少なくともフランを含むヘミセルロース由来の分解物を得る方法であって、

バイオマスを 280 ～ 320 の範囲の第 1 の加熱温度で加熱する第 1 加熱工程と、
第 1 加熱工程で得られたガス化物を、600 ～ 800 の範囲の第 2 の加熱温度で加熱してヘミセルロース由来の分解物を得る第 2 加熱工程
を含む、前記方法。

【請求項 4】

植物系バイオマスを熱分解することにより、少なくともフェノールまたはクレゾールを含むリグニン由来分解物と、少なくともフランを含むヘミセルロース由来の分解物とを得る方法であって、

バイオマスを 280 ～ 320 の範囲の加熱温度で加熱する加熱工程 A と、
加熱工程 A で得られたガス化物を、600 ～ 800 の範囲の加熱温度で加熱してヘミセルロース由来の分解物を得る加熱工程 B と、

加熱工程 A で得られたバイオマス残渣を、500 以上の加熱温度で加熱してリグニン由来分解物を得る加熱工程 C と
を含む、前記方法。

【請求項 5】

加熱工程 C における加熱温度が 500 ～ 600 の範囲であり、加熱工程 C でさらに生じたバイオマス残渣を 600 以上の加熱温度で加熱してリグニン由来分解物を得る加熱工程 D をさらに含む、請求項 4 に記載の方法。